

## 「人格の発露」として

### —まえがきに代えて—

本書は、特定秘密保護法廃止を求める長野県民ら300名を超える民によって執筆されました。

発刊の目的は、安倍晋三内閣総理大臣をはじめとする全ての国会議員に届けることによって、そして、多くの本書読者の発声で願わくは全国各地で同質の取り組みがなされることにより、民の声が国政を動かす状況を創り出すことにあります。その思いたるや遠大です。

私たちが、まさに国会で同法案がごり押しされようとしている2013年11月25日に、「ストップ秘密保護法＝長野県民投票」を呼びかけたところ、1週間足らずで同法案「反対票」が1627通寄せられました。そのうち500を超える投票用紙に付されていた「ひと言」が読み手の心を揺すぶりました。松本市内の20代男性が、太いマジックペンで思いきり大きく「① 反対 日本の未来は明るくなくてはいけない!!!」と書きました。先の見通しを持ちにくい社会で、自分だけ人間だと思いきまされている多くの若者が、それでもなんとか明るい明日を目指してがんばろうとしているのに、そこにこの法律で暗黒社会を造られてはたまったものではない。このような叫びを感じました。また、平和憲法とともに戦争のない時代に生まれ育ち社会を支えてきた世代、なかでも60代からの投票が450を数え、二番目であった50代の287を大きく超えました。戦争に明け暮れた戦前の如き社会を残すわけにはいかないという「次世代への責任」が浮かび上がっていました。

内容も「造り方」も戦後最悪の特定秘密保護法の施行が迫りつつある今、しかも、安倍晋三首相が、国民を守るためにこれまで為政者に強いてきた、憲法、原則、法律などの「枠」を大きく取っ払って、内閣の判断一つでなんでもできる独裁政治に突き進もうとしている今、「次世代への責任」を果たすには、今ここで、横につながりつつ自己の全人格を思いきり発露させ、それをもって為政者を包囲しこれを放逐させていくことが必要ではないか。

この思いから、今年3月1日から20日まで「第2次県民投票」に取り組みました。「人格の発露」との趣旨から、ひと言を付することを必須にしました。

そしたら、どうでしょう。長野市内の60代女性の投票用紙です。

私は毎日家族のためにだけ、食事を作り、洗濯をし、掃除をしている…だけのただの主婦です。

(と書き始め)

どうか、私の夫を子供を孫たちを殺さないで下さい。

そして、私の夫や子供や孫たちに殺させないで下さい。

とるに足らない一主婦のささやかなそして全てをかけた願いです。

(と結びました)

読むたびに胸が熱くなります。

232名から熱き投票がなされました。ぜひ、本文をじっくりご覧ください。この方のように、ご自身の言葉で物事の本質を突く、読み手をして「光るものがある」と思わせる投票が次々に続くのです。思えば、国政の争点を問う世論調査で、ほとんどいつも平和と人権を尊重する回答が過半数を占めます。戦後、非戦と基本的人権尊重憲法のもとで70年、国民のなかに培ってきたものは決して小さくはないのです。でも、でも、そのような「内心」を身体の外に向かって表現することがあまりに少ないことも事実ではないでしょうか。2回の県民投票のなかで、「このように直接、意見を述べる機会を創ってもらってありがたい」との声をたくさん耳にしました。

そうなのです。このような機会さえあれば、日本国民は、人格の発露としての発言をなす力を蓄えてきているのです。まだまだ元気な60代が(60代に限りませんが)、全国各地で多くの民と「人格の発露」としての発言の機会を率先して創るように尽力していけば、安倍晋三ではなく、民が社会を動かしていくことも不可能ではない、そのように思います。若い人たちも、その発言にきつと共感を示すことでしょう。

私が代表を務めている「信州ML管理人会」(5名で構成)は

ストップ秘密保護法—信州ML(メーリングリスト)登録152名

退陣! ポーソー安倍晋三自公政権—信州ML登録52名

を運営しており、そこでは、参加者が情報を共有しつつ提案型行動に自発的に係わるべく柔らかく横につながっています。若者対象の「若者ML」も、同管理人会の一員である若者自身で開設運営しています。他方、私が個人的に全国に呼びかけこの3月に創立に至った、60代を中核とする「憲法世代の会」も今、40名を超えました。これらに関心おありの方は、「毛利正道のブログ」をご覧ください。最後に、この本は、執筆者を含む90名を超える皆様の募金によって発刊できましたことをご報告し、お礼に代えさせていただきます。

2014年5月 信州ML管理人会代表 毛利 正道(弁護士 64歳)